

B-ism

NO.5

佛教大学

佛教大学広報誌

mokuji

- 2 巻頭特集 Special CROSS TALK
- 6 hot-TOPICS. 大学の展望
- 8 hot-TOPICS. 大学の動向
- 12 「B-L.L 研究報告」
- 14 学生編集室の窓
- 17 輝き Close Up
- 18 「密着！ 高橋ゼミ」
- 20 Listen UP—OB・OG訪問
- 21 Favorite 「先生のお気に入り！」
- 22 B-Information

B-ism
NO.5

発行日
2012年(平成24年)12月15日

発行者
山極 伸之

編集者
広報委員会

編集・発行
佛教大学広報課
〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96
TEL 075-491-2141(代表)
www.bukkyo-u.ac.jp/
www.bukkyo-u.ac.jp/mobile/

撮影場所 紫野キャンパス

「『感謝』から始まる次の百年」に向けて ～佛教大学の過去・現在・未来を語る～

佛教大学は今年10月23日に開学百周年を迎え、

「『感謝』から始まる次の百年」に向けて歩み始めた。建学の志を貫き、7学部を有する総合大学に成長するに至った100年間。この大きな節目に際し、事務局長や学長などの要職を歴任し60年以上の長きにわたって大学発展に尽力された水谷幸正相談役と、来年4月から就任2期目を迎え、「次の百年」を牽引する山極伸之学長に本学のこれまでの歩みと現在、そして未来について、存分に語っていただいた。

(司会進行は梅田巧事務局長)

関西の大学で初めて通信教育課程を開設

——本学は1953年、関西の大学では初めて通信教育課程を開設しました。60年を経て、全国有数の規模に育ちましたが、水谷相談役は開設に関わられたとお聞きしました。

水谷 私と本学とのご縁は1951年、龍谷大学に通いながら非常勤職員として働かせていただくようになったときです。今でもそうかも知れませんが、当時は大学に行きたくても通学できない環境にいる学生がたくさんいました。通学できない学生にも、仏教精神にもとづく高いレベルの学問を学べる機会を与えることが教育の機会均等であるという思いが通信教育課程開設につながりました。若手の職員だった私が文部省（現在の文部科学省）で開設のための申請書類をもらってきたのですが、書き方など、よく分からなかつたので、既に通信教育を実施していた法政大学の知人に教えてもらいました。文部省の担当者も関西の大学が通信教育に取り組むのは大賛成だと喜んでくれました。

山極 60年前、大学教育の機会均等を目指し、生涯学習の先駆けとして開設した通信教育課程に現在約1万3千人が在籍しています。その後、関西でも追随する大学が出てきました。本学の規模は現在でも全国でトップクラスを維持しています。

水谷 「寺子屋」を見ても分かるように日本の教育を担ってきたのは仏教です。高校を卒業したばかりの人はもちろん、年齢に関係なく、大学に来ることができない人に大学教育を展開していく。そのための通信教育課程です。

学部学科を増やして総合大学へ発展

——通信教育課程開設から

約10年後の1962年、本学は仏教福祉学科を設置します。1965年には文学部を設置し、総合大学への第一歩を踏み出すわけですが、このころの思い出をお聞かせください。

水谷 当時の恵谷隆戒学長から、若手の教員だった私に「仏教学部仏教学科だけじゃだめだ。学部・学科を増やしたい。君がやってくれないか」と言われました。この時、私は学問を捨てました（笑）。恵谷学長は何ごにも前向きで、素晴らしい方でした。文部省との交渉では通信教育課程開設の時に平職員だった人が係長になっていて、話しやすかったことを覚えていています。

山極 私が入学した時の学長は水谷先生でしたが、全身からオーラが出ているというか、なんともいいものな「人物の力」を感じました。遠くから眺めているだけで、大きな方だなと思っていました。私の学生時代は

新たな大学院や学部が次々と開設され、本学がどんどん変わっていったころにあたりますが、常に水谷先生が先頭に立って引っ張っておられました。お忙しい中、たしか「仏教学概論」の授業も持っておられたと記憶しています。

生涯教育時代の先駆けとなった四条センター

——水谷相談役が学長を務めておられた1984年には、「このころのデパート」をコンセプトに地域社会の方々を対象にした「佛教大学四条センター」も開設されました。四条センターは現在、年間200以上の多岐にわたる講座を開き、受講生も延べ3万人を超えています。開設当時の思い出をお聞かせください。

水谷 それまでも大学の図書館で市民講座を開いておりましたが、私には「大学は社会に出ていかななくてはだめだ」という信念があり、京



佛教大学学長

山極 伸之

YAMAGIWA Nobuyuki

学校法人佛教教育学園相談役、元佛教大学学長

水谷 幸正

MIZUTANI Koshu

都の街の真ん中で市民向けの講義をやろうと、「四条センター」を提案しました。隣に「もののデパート」である大丸京都店がありましたので、私が「我々は小さいながらも、こここのデパートだ」とネーミングしました。全国の大学でも初めてのケースであります。10年、20年と続けるうちにファンも増えてきたようです。



教育学部設置、二条キャンパス開設、教育と社会福祉を二本柱に

テライトキャンパスを持ち、公開講座などを行っているですが、当時は画期的な存在だったと思います。

——昭和の時代に大学の骨格が固まり、平成に入っても教育学部など学部・学科の設置や二条キャンパス開設など発展は続きます。水谷相談役は、学校法人の理事長という一段高いお立場からも大学運営に関わられましたが、二条キャンパスの開設にもご尽力いただきました。その点についてはいかがですか。

水谷 理事長としては十分な仕事はできませんでしたが、それだけに歴代の学長、事務局長が中心となって今の佛敎大学にまで発展させていただいたことをありがたく思っております。そして中身を充実させてくださったの

は、各学部・学科の先生方です。また二条キャンパスと紫野キャンパスは自転車でも往復できる距離です。知恵を出し合って、両キャンパスを有効に活用してもらいたいと思います。

山極 今日の佛敎大学の基礎は、水谷先生が事務局長、学長の時代に築かれたものです。二条キャンパスはJR山陰本線二条駅前であり、周辺人口も増え、活性化している地域にあります。街中のキャンパスとして、本学の次なる展開の拠点と位置付け、さらなる活用をめざしたいと思います。

水谷 私は、仏敎精神にもとづいた教育と社会福祉に力を入れた大学にしようと思いついてきました。だから、他大学の二番煎じ、三番煎じになってしまふ法学部や経済学部は作りませんでした。その発想はよかったと思っています。

山極 教育と社会福祉を柱にするというごに加え、平

成に入ってからの動きとしては保健医療技術学部の設置があります。厳しい社会環境の中で心の問題を抱える人が増え、高齢化の進展で身体ケアも重要な課題となってきました。この分野も教育、社会福祉と同じく仏敎精神と密接に関わっていますし、法然上人の教えともつながります。

水谷 心と身体は不二一体。心身一如が仏敎の精神です。保健医療に関する教育の基

百周年記念事業の総仕上げとなる「礼拝堂」建設

——本学は校地の拡張や二条キャンパス開設などハード面の整備も続けてきましたが、まだ礼拝堂の建設が残っております。

水谷 私はかねてから「礼拝堂を作りたい」と言ってきました。学生が校門に入った時に手を合わせられるような礼拝堂をぜひ建設してもら

法然上人の心を心とする大学

山極 開学百周年にあたり、2013年度からの10年にわたる将来ビジョンを示した「佛大 Vision 2022」を発表させていただきましたが、その基本には仏敎精神があり、法然上人の心があります。50年先、100年先という未来を見据えながら、まず10年後の到達目標を定めました。社会の要請に込められるよう大学の力を充実させながら、時代の変化にあわせて、他大学にない佛敎大学ならではの取り組みを

進めたいと思います。

水谷 一言付け加えさせていただきます。佛敎大学は「法然上人の心を心とする大学」です。それは社会的な弱者に温かい眼(まなこ)を注ぐことができる人材を育て、社会に送り出すということです。仏敎学科は当然ですが、他の学科でも同じことです。このことは100年先、200年先も変わらないし、変わってはいけません。官僚になって立身出世したいという学生や経済界で活躍したいという学生がいても構いません。しかし、佛敎大学が目指すのは、弱い立場の人

山極 リニューアル工事後の最後を締めくくるものとして礼拝堂の建設も計画に入っています。礼拝堂はキャンパスの中心にあって、学生たちのキャンパスライフに寄り添い、すぐに触れることができる存在にします。心に問題を抱えている学生が増えていますから、学生たちがずっと手を合わせ、心を落ち着けることができる場所にしたいですね。

「感謝」から始まる次の百年

——百周年という大きな節目を迎えた今、将来をとして未来の佛敎大学についてのお考えを聞かせてください。

水谷 まずは今ある学部・学科を育てることが大切です。人間と同じで産むだけではだめで、きちんと育てることが必要です。設置して10年も経っていない学部や学科がいくつもあるのです。これを育てるのが学長の仕事です。

山極 もちろん、今の学部や学科を社会的にしっかり認められるように充実させていくことが大事だと考えています。さらに考えているのは生涯学習の展開です。60年にわたる通信教育課程の歴史と蓄積を財産としながら、次なる時代に向けて、社会的なニーズにしっかり応えられる教育組織を構築しなければいけないと思っています。そのために生涯学習機構の中に総合的な〈学びの場〉として「生涯学習センター」を設置し、生涯学習に関わる新しい講座を、多角的・戦略的に提供するセンターとして運営します。



水谷 幸正(みずたに・こうしょう)

1928年、三重県生まれ。佛敎専門学校(現・佛敎大学)卒業後、龍谷大学大学院文学研究科修了。51年に佛敎大学職員となり、57年に専任講師、61年に助教授、67年に教授。69年から79年まで事務局長、79年から89年まで学長を務め、その後、学校法人佛敎教育学園理事長などを歴任し、現在は同学園相談役。専門は仏敎学。文学博士。佛敎大学名誉教授。元浄土宗宗務総長。

山極 伸之(やまぎわ・のぶゆき)

1961年、長野県生まれ。佛敎大学文学部仏敎学科を卒業。同大学院博士後期課程単位取得満期退学。博士(文学)。マールブルク大学宗敎資料収集所客員研究員、イェール大学客員研究員、佛敎大学教授などを経て、2009年4月1日より現職。今年10月の学長選挙で再任され、13年4月から2年間、二期目を務める。専門は仏敎学。日本印度学仏敎学会賞、浄土宗学術賞を受賞。浄土宗教師。趣味はサッカー、フットサルと音楽鑑賞。

山極 おっしゃる通りです。本日、いろいろな話を聞かせていただき、水谷先生が目指して取り組まれたところが、私たちが目指すところは、まったく同じであると確信できました。水谷先生の志をしっかりと受け継ぎながら、次の世代へつないでまいります。

佛大Vision 2022

開学百周年。 次なる百年に向けての第二步

10年後の姿を思い描き、
進むための方針とは――。

本学は、2012年、前身の佛教専門学校から数えて開学100周年を迎えました。本学の未来に向けたビジョンを考えると、100周年という節目にあわせるならば、さらに100年後の大学像を描くことが必要になるでしょう。しかし、混迷を続ける

現代社会の状況において100年後をイメージすることは容易ではありません。もちろん、100年後の未来においても、佛教大学としての歴史と伝統を踏まえつつ、本学の特色を發揮しながら個性輝く大学として発展を続けることを目指します。そのうえで、大学の未来像として、まず10年後の佛大の姿を思い描き、そこに向かって進むための方針を立てました。

到達すべき8つの目標

本学だけでなく、すべての高等教育機関を取り巻く社会的な環境は今後ますます厳しさを増していくことが予想される。そんな激動する世の中であっ

て、本学はゴータマ・ブッダ（釈尊）と法然上人が歩まれた道、そこで示された生き様、教えを指針とし、建学の理念と伝統に基づきながら、到達すべき目標を8点に集約しました。私たちは2022年（開学100周年）を目標とします。

とを活かして教育の充実をはかり、学生が真に実力を向上させることができる教育体制を構築したいと考えます。そのために、社会から大学に求められている責務を踏まえ、6つの枠組みを設定し、これに基づいて、ビジョンの実現に向けた基本方針を定めました。



改革の6つの枠組み

これらの目標に到達するためには、さらに具体的な取り組みの方向性を示す必要があります。社会の要請や時代のニーズを的確にキャッチしつづ、100年にわたる大学の伝統と蓄積

未来に向かって

10年後、20年後、30年後さらには50年後といった未来社会において、本学で学んだすべての学生が、素晴らしい「佛教大学人」として生き生きと活躍し幸福に過ごすことができるように、そのための基礎や成長につながる力を確実に届けることが佛教大学の使命に他なりません。先に掲げた目標の達成と、使命の実現に向けて、大学一丸となって全力で取り組んでまいります。



冊子版『佛大Vision 2022』発行

到達目標の詳細や、方針に基づいて取り組むべき具体的な課題、内容については冊子版ならびに本学ホームページをご覧ください。

URL:<http://www.bukkyo-u.ac.jp/about/vision2022/>





100周年記念事業推進事務局からの報告

これまでの100周年に関する取り組み

2012年に開学100周年を迎えた佛教大学は、『感謝～ありがとう～』をコンセプトにシンポジウムや地域の清掃活動、ラジオ番組制作などさまざまな記念事業に取り組んできました。

ありがとうプロジェクト

2012年の開学100周年を迎えるにあたり『感謝～ありがとう～』をコンセプトとして、今まで言えなかった感謝の気持ちを伝え、ありがとうを広げる「ありがとうプロジェクト」事業を進めています。プロジェクト1年目は、在籍時に言えなかった先生方への感謝の気持ちを伝える、「先生ありがとうプロジェクト」を開催し、全国から寄せられた約7,000通のメッセージから、リーフレットを製作し、近畿一円の教育機関に届けました。プロジェクト2年目は、「ありがとう」で、福祉・医療を元気にするテーマに、福祉・医療に関わる「ありがとう」を集め、広めていくこと、また福祉・医療機関に従事されている皆さまを元気にしようとの目的で、福祉・医療に従事されている皆さまに本学学生が直接インタビューさせていた、そこで伺ったリアルなエピソードを集め、冊子にいたしました。

そして、プロジェクト3年目の今年も、これまでの取り組みの集大成として、学内における『感謝～ありがとう～』の理念を浸透させることを目的に、学生および教職員が中心となり、プロジェクト報告ムービーおよび楽曲「ありがとう感謝」の制作に取り組みました。楽曲と報告ムービーは、開学100周年記念式典において「ありがとうプロジェクト報告」と題して発表いたしました。なお、100周年記念サイトの「ありがとうプロジェクト」の中で、「ありがとう感謝」の楽曲のダウンロードをいただいておりますので是非ご覧ください。

ありがとうの多い人生は、いい人生だ。



1

書籍「ありがとうが生まれたとき」 全国書店にて販売中!

開学100周年記念「ありがとうプロジェクト」から、書籍「ありがとうが生まれたとき」(医療・福祉の現場の「リアル」を伝えるフルカラーインタビュー集)が、全国書店にて発売中(平成25年2月25日迄)です。周りの方々へご案内いただきますとともにぜひご購入ください。



開学100周年記念イベント地域貢献事業の一環として、日ごとお世話になっている地域の皆さまに、開学100周年のキーコンセプトである『感謝～ありがとう～』を具現化すべく、「全学まちピカ☆大作戦」と題した、清掃活動を行っています。第1回の紫野キャンパス・岩倉キャンパス周辺の清掃活動(2011年10月9日)、第2回の広沢キャンパス周辺の清掃活動(2012年2月11日)〈祝・土〉に引き続き、2012年6月17日(日)に二条キャンパス周辺にて第3回の清掃活動を行いました。



「全学まちピカ☆大作戦」の開催

3

ラジオ放送「B-ism Radio」

100周年記念事業の一環として、佛教大学放送局の学生がDJを務める番組「B-ism Radio!」がエフエム京都α・STATIONにて放送中です。2011年11月からスタートしたこの番組は、2012年に開学100周年を迎える「佛教大学」の「今」、「これから」、そして「人と人とのつながり」や「絆」などを通じて勉学、教育、サークル、スポーツ、カルチャーにまつわる軌跡や将来の夢に繋がるさまざまな活動をバラエティに富んだゲストを招きながら、紹介していきます。

「輝き」をもった今の佛教大学生の魅力を、ぎゅっと凝縮した30分番組です。

2013年3月31日まで放送しています。ぜひお聴きください。



B-ism Radio!

SUN 20:30-21:00 KYOTO 89.4MHz NOW ON AIR!

放送は、毎週日曜日 20:30~21:00、
京都FM 89.4MHz
番組名は、「B-ism Radio!」
皆様の周りの方々にPRいただくと共に、
ぜひお聞きください!



2

2012年9月23日(日)、開学100周年記念イベントとして、西京極総合運動公園陸上競技場兼球技場(西京極スタジアム)において行われた京都サンガF.C.ホームゲームを「佛教大学開学100周年記念スペシャルマッチ2012」として開催いたしました。

会場となった西京極スタジアムでは、課外活動団体や100周年記念事業学生プロジェクトメンバーによるイベントや「ぶったん」も登場し、来場者の方々と交流を図ることができました。

キックオフ前の場内では、学生たちによる開学100周年記念京都サンガ応援パレードを行い、吹奏楽部・チアリーダー部を先頭に、体育会や文化会、報道本部に所属する学生を中心に総勢100名を超える応援パレードになりました。スタンドからはパレードが通過する際に温かい拍手が沸き起り、学生たちにとっては感動的なパレードでした。

試合は、4-1で京都サンガF.C.が快勝し、佛教大学開学100周年記念スペシャルマッチ2012を最高の雰囲気の中で終えることができました。当日、ご声援いただきました皆さま、ありがとうございました。



「佛教大学開学100周年記念スペシャルマッチ2012」の開催

4





四条センター会場 入口



キャンパスリニューアル模型展示

「100年の歩みー写真パネル展」開催報告

10月22日(月)～10月31日(水)に四条センターカルチャールーム、11月3日(土)に紫野キャンパス成徳常照館5階ホワイエにおいて「100年の歩みー写真パネル展」を開催いたしました。

四条センター会場では約60点、紫野キャンパス会場では100点の写真パネルが展示され、当日は、多くの方々にご来場いただき、盛況のうちに終了しました。

- 《第1回 四条センター会場》
 日 時：2012年10月22日(月)～10月31日(水) 10:00-17:00
 ※10/27(土)、10/28(日)四条センター休館日を除く
 会 場：カルチャールーム(展示スペース)
- 《第2回 紫野キャンパス会場》
 日 時：2012年11月3日(土) 13:00-16:00
 会 場：成徳常照館5階ホワイエ



開学100周年記念シンポジウム開催報告

2012年9月29日(土)、本学紫野キャンパス鷹陵館2階メインホールにおいて、開学100周年記念シンポジウム「いのちをつなぐ」感謝ありがとう〜とともに」が開催されました。当日は、基調講演講師として、戦場カメランの渡部陽一氏をお招きし、「世界からのメッセージ〜生きるということ〜」と題し、世界各地の戦場で取材した事例や写真を通して、生きることに本質についてお話しいただきました。

基調講演に引き続き、「生老病死や感謝を題材に、本学卒業生のレッド吉田氏(お笑いコンビ「T.M.」、大前千代子氏(日本車いすテニス協会会長)、鍋木蓮氏(作家)の3名の方からのビデオメッセージが上映されました。

その後、黒田恭史教育学部教授がコーディネーターを務め、渡部陽一氏、伊藤真宏仏教学部准教授、武内一社会福祉学部教授、八木彌生保健医療技術学部教授の4名がパネリストとして登壇し、「いのちをつなぐのために」と題したパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは、仏教、社会福祉、医療のそれぞれの観点から活発な議論が交わされました。

会場には、約1100名もの方々にご来場いただき、盛況のうちにシンポジウムは終了いたしました。当日、ご来場いただいた皆さま、ありがとうございました。



開学100周年記念式典・講演会・祝賀会開催について

2012年10月23日(火)、「佛敎大学開学100周年記念式典・講演会」が紫野キャンパス鷹陵館メインホールにおいて盛大に開催されました。当日は、浄土門主・総本山知恩院門跡伊藤唯眞猊下の御臨席を賜り、750名を超える多くの来賓・招待者の方々とともに、学生・教職員が一堂に集い、ともに開学100周年を祝いました。

式典は、厳粛かつ華やかに執り行われた音楽法要で始まり、本法人理事長中井眞孝、学長山極伸之による式辞の後、伊藤唯眞猊下よりご垂示を、田中眞紀子文部科学大臣代理・山野智寛文部科学省大臣官房審議官、山田啓二京都府知事、門川大作京都市長、豊岡鏡尔浄土宗宗務総長よりご祝辞をいただきました。



中井 眞孝 理事長 式辞



山極 伸之 学長 式辞

引き続き、佛敎大学の将来展望である「佛大Vision 2022」が映像とともに、学長山極伸之から発表されました。



山極伸之学長による「佛大Vision 2022」発表



また、本学が、開学100周年記念事業の一環として、100周年のキーコンセプトである「感謝ありがとう〜を具現化し、広めていくことを目的に取り組んできたありがとうプロジェクト」について、プロジェクトを推進した学生メンバーにより報告がなされ、あわせて、その集大成であるありがとうのうた「ありがとうー感謝ー」のミュージックムービーが上映され楽曲が披露されました。

最後に、佛敎大学学歌を参加者全員で斉唱し、記念式典はなごやかな雰囲気なかで幕を閉じました。

記念式典終了後、会場をウェスティン都ホテル京都(瑞穂の間)に移し、関係各位450名の来賓を



学歌斉唱



堀田 岳成 同窓会会長 ご祝辞



赤松 徹眞 龍谷大学学長 ご祝辞



大本山金戒光明寺御法主 高橋弘次 台下 ご祝辞



大蔵流 茂山千五郎家 狂言「三番三」

迎え、記念祝賀会を開催しました。なごやかな雰囲気の中、多くの方々とともに100周年を迎えられたことへの感謝と喜びを分かち合いました。さらに、10月24日(水)、現在の教職員ならびに元教職員による記念祝賀会を開催し、100周年を迎えられたことへの感謝とともに、新たな一歩を踏み出した第1日目を祝いました。

続いて、開学100周年記念講演会として、本学第7代学長・名誉教授の伊藤唯眞猊下より、「大学発展の根底にひそむもの」一危機意識と興学・育英」と題して、ご講演を賜りました。伊藤唯眞猊下のご講演では、先達の残された本学に関わる一世紀半の歴史を振り返り、過去の歴史を踏まえながら、本学が、これから歩む次なる百年について、貴重なご講演をいただきました。



浄土門主・総本山知恩院門跡伊藤唯眞猊下による講演会の様子



山田 啓二 京都府知事 ご祝辞



田中眞紀子文部科学大臣 ご祝辞 (代理)山野 智寛 大臣官房審議官



豊岡 鏡尔 浄土宗宗務総長 ご祝辞



門川 大作 京都市長 ご祝辞



B-ism 2012 December 海外来賓からの記念品贈呈



23日開会の様子



水谷 幸正 法人相談役 乾杯挨拶



(図2)第321窟



(図1)第431窟 宝樹観



「カタチある仏教世界から、歴史の真実を探る」 仏教美術を様々な角度で探求

仏教学部仏教学科 准教授 **大西 磨希子**



奈良県葛城市の当麻寺にある国宝「綴織当麻曼荼羅図」は、絵画ではなく、図柄を綴織の技法によって織り出した阿彌陀浄土図だ。中国・敦煌での調査をとおり、大西磨希子先生は、それが現存する作例の中では群を抜いて優れた、中国・唐の超一級品であるとの考えに導かれた。

B-L.L 研究報告

**不可思議な図柄は
何を意味するのか？**

「莫高窟」は、シルクロードの要所、中国西北部の敦煌にある仏教遺跡。砂漠に居並ぶ数百もの石窟には、千年に渡り描かれてきたおびただしい数の仏教壁画が現存し、世界遺産にも登録されている。「新聞社主催の研究員派遣制度によって訪れたのが最初です。圧倒的な規模、作品の

良好な保存状態に感動しました」という大学院生時代の経験を通じて、大西先生は莫高窟の作品を通じて、作品の背後にある思想や変遷に関する研鑽を積んできました。最初の発見は、「阿彌陀浄土図」の「典拠」と「役割」。きっかけとなったのは、唐代の一枚の壁画(図1)だった。不思議なことに、樹の上に網がかかり、中に小さな建物がい

くつも描かれている。「これはなんだろう」。夜、宿に戻り経典を開くと、『観無量寿経(観経)』の記述に由来していることが分かった。「極楽の樹には真珠の網がかかっている、中に宮殿がある」。翌日、阿彌陀浄土図の壁画を見てみると、そこにもこの不思議な図柄が描かれていることに気付いた(図2)。

阿彌陀浄土を描いた作品はこれまで、浄土そのものを描いた「阿彌陀浄土図」と、その周りに「観経」の内容を説明的に描いた図を加えた「観経变相図」に大別されてきた。死後に阿彌陀仏の極楽浄土への往生を願う浄土信仰には主に三つの経典があり、阿彌陀浄土図は『無量寿経』や『阿彌陀経』に、観経变相図は『観経』に基づくとされてきた。つまり、阿彌陀浄土の

はこれまで、浄土そのものを描いた「阿彌陀浄土図」と、その周りに「観経」の内容を説明的に描いた図を加えた「観経变相図」に大別されてきた。死後に阿彌陀仏の極楽浄土への往生を願う浄土信仰には主に三つの経典があり、阿彌陀浄土図は『無量寿経』や『阿彌陀経』に、観経变相図は『観経』に基づくとされてきた。つまり、阿彌陀浄土の

**曼荼羅はどこで作られ
誰が持ち込んだのか？**

「視覚教材的な意義」のあ

った阿彌陀浄土図だが、年月を経るにつれ、経典を忠実に描写したものではなく、なっていく。原因は「画工の経典への無理解と、戦乱で教義の継承が途絶えたため」と考えられる。しかし、遠く離れたこの日本に、驚くほど「忠実な作品」が伝えられていた。綴織当麻曼荼羅図。絹製、晝表のように縦糸に糸を絡みつける手法で、約4畳四方に渡って阿彌陀浄土を精緻に織り出した、いわばタペストリー。職人の方曰く、熟練工が数人かかりきりで作業しても十年近くは要する」という大作だ。

この曼荼羅図、とにかく謎が多い。いつ、誰が、どこで作ったのか、なぜ当麻寺にあるのか、これも不明です。大西先生は制作場所の特定に挑んだ。

従来の見解では一般に日本製とされる。銘文に「天平宝字七年」と、日本の奈良時代の年号があったとされるためだ。大西先生はまず、綴織や金糸といった技術や材料に関する先行研究をふまえて、中国製であるとした。さらに「銘文は作品の完成後に施されるもので、中国製の作品に日本の年号があったとしてもおかしくはない」と付加して、中国製説を強化した。その制作に携わったのは、正確な図柄、高価な材料、高度な技術といった面から、唐の宮廷工房と推測する。

誰が日本にもたらしたのか、これも不明です。大西先生は制作場所の特定に挑んだ。

**仏教美術史を通して
何を学ぶのか？**

「すごい作品なので、もっと研究していきたい」。大西先生は確証を得られていない由来はもちろんだ。当麻曼荼羅図のあらゆる謎に挑戦するつもりだ。「刻まれた年号

「すごい作品なので、もっと研究していきたい」。大西先生は確証を得られていない由来はもちろんだ。当麻曼荼羅図のあらゆる謎に挑戦するつもりだ。「刻まれた年号

の意味も不明。なぜ当麻寺に伝わったのかも今後の課題です。本来のフィールドである莫高窟との比較研究も忘れない。「唐代の仏教美術は、戦乱の影響で中国中央部には残っていません。あるのは西の敦煌と、東の日本。比較をとおして作品の位置付けも調べたい」。



大西 磨希子(おおいし まきこ)
兵庫県生まれ。早稲田大学大学院文学研究科芸術学(美術史)専攻博士後期課程単位取得退学。博士(文学)。国立情報学研究所コンテンツ科学系プロジェクト研究員、サイバー大学世界遺産学部准教授を経て、2010年4月より現職。専門分野は仏教美術史、東洋美術史。著書「西方浄土曼荼羅の研究」(中央公論美術出版)、論文「初唐期の西方浄土曼荼羅の調査」と敦煌莫高窟の作例をめぐりに「(『佛教藝術』273号)」、「綴織当麻曼荼羅考一図様解釈および制作地と制作年代について」(『佛教藝術』280号)など。

ラジオ 編

まずは番組制作を体験、そこから見たいろいろなこと。 BUTSUDAI NOW! 1

「限られた時間内で発信することはとても刺激的！」

番組制作

今回制作した番組は放送エリアが京都市近郊ということもあり、放送を聞くことができる方楽しんでいただけるよう「コミュニティならではの放送」を意識しました。15分番組で、収録は1回限り。佛光大学が開学100周年を迎える2012年10月23日に放送を行いました。Podcast配信も行っており、京都三条ラジオカフェ公式ホームページ・アプリで聴いていただくこともできます。ぜひ聴いてみてください。

公式HP >>> <http://radiocafe.jp>



『β-station』

タイムテーブル

- オープニングトーク
- コーナー1 社会学部の魅力
- コーナー2 京都出身以外の佛大生によるおすすめB級スポット
- エンディングトーク
- 終了

B-ism Radio !って?

佛光大学の開学100周年を記念し、現在放送されている「B-ism Radio!」。佛光大学放送局が企画・放送を行っているこの番組では、佛大にゆかりのある方をゲストに招き、佛大の魅力を存分に伝える番組です。DJを務める井畑さんは「学生らしさを前面に出しつつ、幅広い世代の方に共感していただけることを意識して番組制作に取り組んでいます」と話してくれました。バラエティに富んだ個性あふれるスタッフでお送りする「B-ism Radio!」は、毎週日曜日20:30～21:00、エフエム京都89.4MHzにて放送中です!



活動を終えて

VOLUME 1



取材者代表
社会学部
現代社会学科3回生
清水麻里奈さん

初めての取材ということで、話を上手く引き出せるのか不安でしたが、実際お話を伺ってみると、みなさん私たちの質問に丁寧に答えてくださり、楽しく行うことができました。

初対面の方から、お話を聞くことは、考えていたより難しかったですが、様々なお話を聞くなかで、非常に刺激を受けましたし、自分自身の考えも深まる機会になりました。

VOLUME 2



ラジオ出演者代表
社会学部
現代社会学科3回生
今村理紗さん

収録日当日は、緊張しながらも楽しい15分間を過ごすことができました。収録日までにかけた時間は、約2週間。伝えたいことは多くありましたが、それらを限られた放送時間で伝えなければなりません。自分の見た風景や感じたことを、どのような言葉で表現すれば良いのか、非常に悩みました。伝えるということは、相手がいて成り立つものであるということに改めて気づかされた番組制作でした。

VOLUME 3



ラジオ制作者代表
社会学部
現代社会学科3回生
川西達広さん

普段ラジオを聴く機会がないため、原稿を書くと言っても、堅い文章か思い浮かばず、なかなか作業が進みませんでした。そこで、パーソナリティと意見交換を行うことで、それぞれの個性を生かし、時には文章化へのこだわりを捨て、原稿作成を進めました。

結果的に、自分たちの思い通りの形に番組が仕上がったと感じています。

なうな掌話 その八

— 気軽に情報発信! 地域密着型コミュニティ —

京都三条ラジオカフェ

今回の番組制作で利用させていただいた、京都三条ラジオカフェはNPO法人初のコミュニティラジオ局として2003年に開局された放送局です。この放送局の最大の特徴であり魅力といえば、カフェでのお喋りのように誰でも気軽に情報発信者になれるという点。理事・放送局長を務める時間浩二さんは「地域の新しい一面を発見したり、コミュニティの絆を深めることができる場になれば」とおっしゃっていました。身近な人が発信するラジオ番組、あなたも一度聴いてみませんか?

B-ism

2012
December



コミュニティとクールジャパン

今号は社会学部の大場吾郎ゼミでメディアコンテンツ産業を学んでいる私達が2つのグループに分かれ活動報告をします。テーマは「情報発信」と「情報受信」。情報発信の面では、「FM局で「B-ism Radio!」が放送されていることもあり、身近な存在である「コミュニティラジオ」に目を向け、番組制作を通して情報発信について考えました。情報受信の面では、近年クールジャパンと評される「マンガ」というコンテンツを取り上げ、留学生や京都国際マンガコミュニティへの取材を通して情報の捉え方の違いについて考えました。「コミュニティラジオは「聴覚に頼る」「地域に根差した」メディア、マンガは「視覚から入る」「グローバルな広がりを持つ」「コンテンツ」という対照的な特徴を持っています。それぞれの魅力を探りつつ、私達の学びの姿を紹介したいと思います。

ラジオ 編 On the radio

見直してみませんか? コミュニティのつながり

取材・編集
社会学部現代社会学科3回生
今村理紗 清水麻里奈
倉石亜矢子 福嶋 悠
川西達広 宮野恵里花 鈴木 瞬

時代の流れに伴い情報発信が簡単になった現代。例えるならSNS。しかし、今回コミュニティ放送局でラジオ番組を制作するにあたって私たちが学んだのは情報発信の難しさです。この2つ、媒体は違いますが両方とも狭い範囲に情報発信する点では同じ。違うのはコミュニティに対する意識。時代に伴い変化したこの意識。この機会に…
見直してみませんか? コミュニティのつながり。



Comics culture to the world マンガ 編

「クールジャパン」という言葉をご存知ですか? いま、日本のマンガやアニメなどのポップカルチャーは日本独自の文化として世界で高い評価を受けています。そこで私達は、マンガに注目しました。社会学ではマンガなどでも、視点を変えることで学びに変えることができるんです。そこで提案です。
広げてみませんか?
グローバルな視野。

広げてみませんか? グローバルな視野

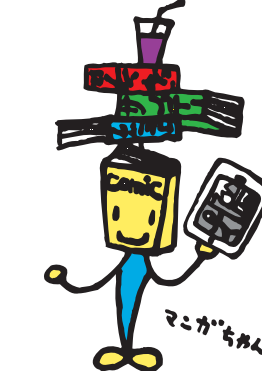
取材・編集
社会学部現代社会学科3回生
池上翔伍 壁谷 雅
川島純一 北村心人
重田 梓 吉田 祐



佛大 窓



特集—情報の発信メディア、コンテンツ ラジオ × マンガ





自らの「もしもしコウちゃん」は、友人を励ますメッセーシ性の強い楽曲。路上やライブハウスやイベントで、ギターをかき鳴らしながら歌い上げる。ソロで、グループで、音楽を通じて地域や人々を笑顔にしたいという思いで活動している。

多感な中学生の時、一人で思い詰めることが多かったが、家族や仲間として何より音楽に救われた。「歌い手側が知らないところで、人が救われるってすごい」。自分も歌の力で周りの人を幸せにすることができないのではないかと曲を作り始めた。つらい時に支えてくれた家族を、音楽で幸せにしたいとも願う。

♪ 周りの環境はお前が変わる
等身大の人生じゃもったいないだろ
一度本気で走ってみろよ
怖くなったら後ろにあたしがいるから
絶対一人にはさせませんから

輝き Close up

活躍する学生たち



音楽を通じて人々を笑顔に ソロで「オトノハネプロジェクト」でライブ活動

シンガーソングライター

社会福祉学部 社会福祉学科3年生 小林 未奈さん



「オトノハネプロジェクト」メンバーの川人雅代さんと語り合う小林さん

社会福祉学科に在籍。この秋、実習に行った特別養護老人ホームでのレクリエーションでも歌声を披露した。認知症のお年寄りが笑顔になり、握手をしてくれた。「その人の人生に、一瞬だけでも存在することができた。生きることに触れる一瞬一秒が大事だと思いました」

グループでの活動は「オトノハネプロジェクト」。京都の他大学の学生や卒業生と音楽をツールにして社会に何かアクションを起こしていきたいと学生ミュージシャン団体をつくった。幅広い世代に聴いてもらうために、「リンゴの唄」などレパートリーも広い。岡山や徳島など、各地のイベントでも熱演。祭りのたびに呼んでくれる町もあり、「次も来てね」と言われることがうれしい。

人とのつながりが、音楽を通じて増えていく。「仲間と一緒に、かなわないことはない」と、強い気持ちになれます。これからもずっと活動を続けていきます」

Read now!

BUTSUDAI NOW! 2

マンガ編

日本のマンガ文化

留学生の声を聞こう!

今回私たちのインタビューに協力してくれたのは、3人の女性留学生です。私たちは当初、海外から日本に来る人の多くはマンガが好きなのではないかという勝手な印象を持っていました。また、マンガが好きなのは欧米の方が多くという印象も持っていました。しかし、実際にインタビューしてみると、予想していた回答とは違っていました。返ってきました。私たちにとっては非常に驚くことばかりでした。

★参加留学生
中国：劉杉(リウ・シャン)さん
韓国：金賢(キム・ヒョン)さん
モンゴル：バースト・ボルマーさん

《京都×マンガについて》

京都は歴史的な街というだけでなく、学生の街としても有名です。若者が多い街だからこそ、密かに盛んなものがゴロゴロ転がっています!!そこで今回私たちが取り上げたのは皆さんにも親しみやすい「マンガ」です。ただマンガを読むだけでは楽しい・面白いだけです。けれど、マンガは歴史や時代背景を知ることが出来る資料としても勉強の材料になることもあるんです。

私たちの所属するゼミではこのような「マンガ」を題材として卒業論文に取り組む学生も少なくありません。そこで今回の企画では、その第一歩として海外の人の「マンガ」の捉え方などについて記事にしました。

漫画的表現のいろいろ



そこで、私たちが驚いた点を中心に紹介します。

voice-2 「マンガ」独自の表現を理解することに時間と努力が必要だね。理解しないと物語が進まないしね。

voice-1 マンガは好きですよ。ONE PIECEに黒子のバスケ、セーラームーンとかね。

voice-3 日本を勉強するとき、マンガやアニメについて勉強する道は今や外せないな。

voice-4 「マンガ=子どものもの」で、日本で老若男女問わず好んでマンガを読んでいる姿に違和感を覚えるわ。

インタビュー編



なうな掌話

— 懐かしのあのヒーロー、ヒロインと出会う場所 —

京都国際マンガミュージアム



あなたは京都国際マンガミュージアムに行きましたか? かつての施設は、昭和初期に建てられた小学校校舎を改修したもので、約5万冊のマンガが開架されています。館内は老若男女、海外からの来館者もたくさんいました。マンガは身近な娯楽の一つです。ただ、マンガに描かれるもの一つ一つが、その時代背景を知るカギとなります。また、私たちは何と意識せずに読んでいたマンガですが、吹き出しや記号などマンガに欠かせないこうした表現にはルールがあり、日本独自の文化だとことに展示を見学しました。日本人は知らず知らずのうちに「マンガの英才教育」を受けているんです。みなさんも一度行ってみると新たな発見があるかもしれません。オフなですよ。

私たちの感想

今回留学生にインタビューをして、改めて考えてみると、確かに吹き出しや背景の明確な意味を知らないことに気がきました。マンガミュージアムでその解説をしているコーナーを見て私たちが勉強になったし、それだけ日本人にはマンガ文化が無意識のうちに根付いていることがわかりました。



も盛り込んでいます。先生が講

訪れ、研究室は相談室と化す

こまでも求めるのです」

人生を変えてくれた。演じ

高橋先生が一番うれしい

「人間そのものが幼児教育

ものが混ざり合っています

「人形劇だと演じる人は隠

高橋先生が幼児教育に携

Professorial Seminars

幼児のことばと情操をはぐくむ「遊び」の実践を学ぶ

子どもの遊びやことば・保育行事の研究で知られる高橋司先生は、幼稚園・保育所や研修会でも自らパネルシアターを実演し、そのうえ実際に幼稚園までつくる行動派の「幼児教育実践家」だ。子どもにも、そして学生にも、あたたかい心で真剣に向き合う先生の研究室を訪ねた。

教育学部 教育学科教授

高橋 司



高橋 司(たかはし つかさ) 1949年生まれ。佛教大学附属幼稚園主事、副園長を経て現職。専門は幼児教育、児童文化。著書に「子どもに教える今日はどんな日?」(PHP研究所)「乳幼児のことばの世界 聞くこと話すことを育む知恵」(宮帯出版社)「パネルシアター保育・実践講座」(大東出版社)などがある。

ある日の4回生のゼミ。研究室のテーブルに、てのひらサイズの色画用紙がずらりと並び、「きょうは象を作りましょう。それぞれ好きな色を選んでください」。ゼミ生一人が仕切る。先生はニコニコして見ているだけだ。「紙を半分に分けてください。そして、紙の端にハサミで切り込みを入れてください。これが象の鼻になります」。ゼミ生たちは思い思いの象を形にしていくなか、「ぞうさん」を歌いながら作業をする学生もいる。最後にペンで目を入れて完成。自信作「鼻が短くなっちゃった」。生き生きとした表情で、お互いの作品を見せ合う。最後に高橋先生が「みんな個性的やね。同じ紙で作ったとは思えない。それ以上に大切なことは、象を作る前に子どもが見えたか、作る過程に子どもがいたかどうかだよ」と語った。

高橋先生は教育を食べる物にたとえる。「小学校の教材はフルーツポンチです。具材を一つずつ食べるから。そして、幼児教育はミックスジュース。一つの遊びにいろんな



ある日の高橋ゼミ 「パネルシアターと先生に惚れました」

幼稚園教諭や保育士のタマゴ、高橋ゼミ生は幼児に負けず劣らず元気いっぱい。ゼミや「児童文化研究会 おひさま」の活動で、あちこちを飛び回っている。

高橋ゼミを選んだ理由を聞いてみた。幼稚園教諭を目指す学生は「先輩からの口コミ」がきっかけ。「実践的で、ためになることが多いと思いました」

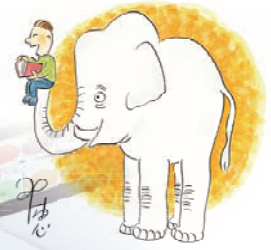
別の幼稚園教諭志望の学生は「パネルシアターを見て、先生の人柄に惚れました」ときっぱり。高橋先生自身も「惚れた、

「愛ゆえに厳しい」の評も。あいさつの励行など「社会人になったら、今さら誰も言ってくれない基本的な大事なことを、言ってくれるのがありがたいという。

研究室には、歴代のゼミ生が先生の誕生日を祝った品々が所狭しと並び。メッセージ入りの色画用紙を貼りめぐらせた色紙など、すべて手づくりだ。現役4回生が手がけた、先生の顔をかたどったバルーンも、さっそく吊り下げられていた。



は好きな言葉です」と笑う。ゼミ生や子どもへの豊かな愛情を象徴しているようだ。先生のいないところでは



みんなで生きていること 漫画で表現したい

仏教漫画家
臂美恵さん
佛敎大学通信教育課程文学部仏敎学科・国文学科卒業

臂美恵(ひじ・みえ)
1954年、広島県府中市生まれ。76年、京都精華短期大学(現・京都精華大学)美術学科マンガクラス卒業。78年、日本漫画家協会新人賞受賞。79年、佛敎大学通信教育課程文学部仏敎学科卒業。88年、同文学部国文学科編入学。90年卒業。日本で唯一の仏敎漫画家と言われている。佛敎大学新百年の誓いのイラストも手がけた。日本漫画家協会会員。



臂さんにとって運命の出会いとは20歳の時。京都精華短期大学(現・京都精華大学)美術学科マンガクラスに入学し、佐川美代太郎先生を知り、師事する。手首が自由に使えるようになっただけで自在の線が描ける。だから人間の基本は掃除だよ」と教えられた。

佛敎大学で学ぶことを薦めたのも佐川先生だ。「生涯漫画を描いていきたいなら、大きなテーマを掲げて耕せ。仏教は日本人のルーツだよ」と言われ、1977年に佛敎大学通信教育課程文学部仏敎学科へ編入学した。それまでは我が強く、自分中心的なところがあったというが、「人間にしていたきました。(佛敎大学を選んだことは)大正解でした。」



卒業後、通信教育部の機関誌に3年間にわたり連載した。それらの作品を集めた仏教漫画集「ブッポウノウ」は、ほのぼのとした画風が特長だが、シニカルな笑いも含まれる。「あのころは仏教を外側から表現していただけで、自分を棚上げしていた。自分の中に芯がなかった」と振り返る。今は「物事を何歩も引いて見ることができるようになりまし」という。

卒業後、仏教を学ぶとさらに文献が知りたくなり、88年に国文学科に編入学。本を読んだり自然に触れて思索を深めた。「つましく暮らしお年寄りが、全財産を寄進して、幸せな顔をして帰っていく。物や形式を超えて人を喜ばせる本物って何だろう」と考える中、子どもたちに禅話を伝えるカルタづくりの話が来た。子どもたちの変化を見て、「大人が

いいものを信じて恐れず臆せず伝えれば、必ず子どもたちの心に残っていく」と実感した。
京都暮らしも長くなった。マンシヨンのペランダはジャングルのよう。以前は虫が苦手だったが、今は親しい仲間だ。「命って脈々と流れていて、赤裸々に何でも教えてくれることを知りました」。そのあたたかい視線は人に対してもそそがれる。「どんなに老いても、自分のやるべきことを一生懸命にやっている人はいとおしい」と感じるようになった。「幸せは自分の中にありました。何はなくても、幸せと思えるようになりました」

「ここ2、3年で「ベース」ができたという。作品にあえて仏像やお坊さんは出さず、植物や動物や人間に登場してもらおう。それぞれが生きてきたとした表情で息づいている。「みんなで今の時代を生きていることを表現したいのです」。花や風景をみえるように美しいと感じるようになったのも最近のこと。「体が震えるほど感動するのです。こんな時間が長く持てれば、人に届くものが描けるかなと思っています」
「仏教を知ったことは、本当に大きかったです」



植村 善博(うえむら よしひろ)
1946年生まれ。立命館大学文学部卒業。立命館大学大学院文学研究科修士課程修了。博士(文学)。京都府立高等学校教諭を経て、現職。専攻は自然地理学。著書に『京都の地震環境』(ナカニシヤ出版)、『比較変動地形論-プレート境界域の地形と第四紀地震変動-』(古今書院)、『京都の治水と昭和大水害』(文理閣)など。

先生のお気に入り favorite 火おこし器

第五回 歴史学部 歴史文化学科教授
植村 善博先生の巻



「暮らしを省みよ」と
教えてくれる2本の棒

1996年、大陸移動に関する活断層と地形の調査のためにケニア北部を訪れた際、現地の遊牧民、トゥルカナ族からいただきました。乾燥した草などを一方の木のくぼみに置いて、もう片方の木でこすり火をおこす道具で、彼らの生活必需品です。

首都のナイロビは、高度1700mで涼しいのですが、彼らが生活する場所は活断層が多く走り、地震も頻発する「グレイト・リフト・バレー(大地溝帯)」と呼ばれるスグタ谷で、昼間は50℃を超える日もある酷暑地帯。雨も年間200ミリほどしか降りません。住む場所が決まれば、まず地面を掘って水を確保し、家は行く先々に生えるヤシの葉で作ります。一定の地に1週間も滞在すれば長い方で、ラクダやヤギの餌となる草と水を求め、家畜の乳と血を飲みつつひたすら遊牧を続けます。

極限の自然環境を転々とする民であるがゆえに、トゥルカナ族は必要最低限のもの

しか持ち歩きません。火おこし器も非常に軽いですし、素材的には現地調達が可能です。これは貧しいのではなく、無駄なものを持たないという切りつめた生き方。厳しい環境に適したライフスタイルを送っているにすぎないのです。

この火おこし器は、豊かさを追い求めた結果、経済が疲弊し、環境の悪化が叫ばれる文明社会の都市に住む私たちに「無駄なものを持つな、シンプルに生きよ」と教えてくれているような気がします。授業でも、自分たちの暮らしを省みるための良い教材になっていますよ。



2013(平成 25)年度 佛教大学入学試験日程

入試種別	出願期間	入学試験日	試験会場
一般入試A日程	(郵送)1月7日(月)～1月16日(水) (消印有効) 〔本学持参〕1月17日(木)9:00～17:00	2月1日(金)・2日(土)・3日(日)	本学(紫野キャンパス)・東京・金沢・名古屋・米原・福知山・大阪・神戸・奈良・和歌山・米子・広島・高松・福岡 ※試験会場によって試験実施日が異なります。
一般入試B日程	(郵送)2月12日(火)～2月19日(火) (消印有効) 〔本学持参〕2月20日(水)9:00～17:00	3月5日(火)・6日(水)	本学(紫野キャンパス)・名古屋・彦根・大阪・神戸・岡山
大学入試センター試験利用入試(前期)	(郵送)1月7日(月)～1月16日(水) (消印有効) 〔本学持参〕1月17日(木)9:00～17:00	◎センター試験日 1月19日(土)・20日(日)	※個別学力検査等を実施しません。
大学入試センター試験利用入試(後期)	(郵送)2月12日(火)～2月27日(水) (消印有効) 〔本学持参〕2月28日(木)9:00～17:00	◎センター試験日 1月19日(土)・20日(日)	※個別学力検査等を実施しません。
大学院・編入学・社会人・別科等の入試	(郵送)1月7日(月)～1月21日(月) (消印有効)	2月16日(土)	本学(紫野キャンパス)

BUまなび隊(公開講演会)開催予定

※BUまなび隊は通信教育課程地方オープンキャンパスの呼称です。

日程	場所	会場	講演内容	教員
2013年(平成25年) 1月19日(土) 13:00～15:30 ※入学説明会 15:00～17:00	神戸	三宮研修センター 神戸市中央区八幡通4-2-12 JR「三ノ宮駅」から徒歩5分 または、阪神、阪急、神戸 高速鉄道、神戸市営地下鉄、 ポートライナー「三宮駅」から 徒歩5分	●講演：言葉を楽しむ 私たちは言葉を通して見えています。考えるのも聞くのも言葉を通して行っています。コーヒーを味わうのも寒いなあと感じるのも言葉を通して見えています。ワイトゲンシュタインという哲学者は、「私の言葉の限界が私の世界の限界である」と言いました。「私」の言葉に応じて「私の世界」があります。その言葉の楽しさを実感しましょう。「私」や「世界」が生きてきています。	坪内 稔典 (文学部教授)
1月26日(土) 13:00～15:30 ※入学説明会 15:00～17:00	名古屋	名古屋サンスカイルーム 名古屋市中区錦1-18-22 名古屋ATビル2階 地下鉄「伏見駅」8番出口から 徒歩2分	●講演：こころの病とその支援 最近、身近なところで起きているいじめや虐待、殺人、原発問題などに接し、私たちは強い不安と緊張にさらされています。家族や社会の不安定と人間の心の不安定が、シンクロナイズされ、心のバランスを狂わせ、誰でもが自分を見失う事態に陥る危険があります。確かな対応の仕方、支援がまだ見えていない現状を踏まえて、問題点や支援について考えてみましょう。	東山 弘子 (教育学部教授)

「これから学びたい!」「もっと学びたい!」今年も各地で公開講演会と入学説明会を開催しますので、皆さんのお知り合いで興味のある方に、ぜひご紹介ください。

宗教文化ミュージアム ■ 〒616-8306 京都市右京区嵯峨広沢西裏町5-26 TEL075(873)3115

日時	公演内容	
2013年(平成25年) 1月19日(土) 14:00～	●第18回シアター公演 「京の花街と上七軒の茶屋文化」 出演：今井貴美子(大文字女将) 解説：小野田俊蔵(本学歴史学部教授、本館館長)	※要事前申込
1月27日(日)～3月17日(日)	●冬期企画展 『佛教大学の昭和30～40年代 -「旭日昇天の勢い」と発展の時代-』	第二展示室

B-ism

2012
December

2012年10月23日に本学は開学100周年を迎えることができました。広報誌「B-ism」でも開学100周年に向けた様々な取り組みを紹介してきました。あらためて100年の歩みを紐解いてみると先人のたゆまぬ努力と先見の明、そして何より、いつの時代にも仏教精神に根ざした人間教育に力を注ぐ大学の姿がありました。これまで支えてくださった皆さまに「感謝～ありがとう～」の想いを抱きながら、これからも「法然上人の心を心とする大学」として佛教大学は歩み続けます。 佛教大学 広報課 どうぞよろしくお願いたします。

B-information

みんなの掲示板

2013年 主な行事予定

修正会・始講式

Date
1 / 5 (sat.)

定員
150名
13:00～
14:30

同窓会提供講座「人間」

Date
1 / 26 (sat.)

定員
150名
13:00～
14:30

●場所：佛教大学四条センター
〒600-18008
京都市下京区四条烏丸北東角京都三井ビルディング4階
TEL075(233)8004

本学卒業生 福田豊氏(昭和56年3月通信教育課程文学部史学科卒業)元島根県立高等学校教諭を講師として「サツマイモから絆づくり」をテーマに講演いただきます。福田さんは、サツマイモ研究(節約50年)。高校教員を定年退職後も研究を続け、都会でもできる芋作りから節電対策や焼き芋をはじめとした加工技術を提案し、実践しています。芋を通じて地域と学校、福祉施設等を紡ぐ活動のお話です。

Date
2 / 7 (thu.)

19:00～
21:00(予定)

北野フォーラム
第1部 基調講演
第2部 グループワーク(茶話会形式)
●場所：とも文化会館 小ホール
●講師：奈良県生駒駅前商店街連合会 会長 稲森文吉氏

●テーマ：北野商店街の方々がかかりやすく身近に感じられ、実践に繋げられる内容

Date
2 / 16 (sat.)

13:30～
16:30(予定)

美山フォーラム
第1部 基調講演
第2部 バネルティスカッション
●場所：南丹市美山文化ホール大ホール
●講師：未定

●テーマ：実践に基づいた若い人定住促進の3つのテーマで、若い人たちの活動を通して定住に繋がる内容

Date
3 / 18 (mon.)

平成24年度学位記卒業修了証書授与式(第45回大学院第61回学部第36回別科(仏教専修))

Date
3 / 25 (mon.)

平成24年度学位記、卒業証書授与式(通信教育課程)(第12回前期大学院、第56回前期学部)

平成25年度 入学宣誓式

Date
4 / 1 (mon.)

第6回佛教大学小学生俳句大賞 作品募集

テーマは自由! どんな俳句でもOK!

全国の小学生のみんなから俳句を募集!!

応募資格 ●小学生
応募部門 ●低学年の部(1～3年生)
●高学年の部(4～6年生)
応募締切 **2013年1月31日必着**

詳しくはホームページをご覧ください <http://www.bukkyo-u.ac.jp/haiku/>

ピックアップ ニュース

2012年6月に佛教大学公式Facebookページを開設しました。

今年度4月1日にリニューアルした公式ホームページとともに大学の情報を発信していきます。ソーシャルメディアを活用することで、より広く、そして佛教大学の今をお知らせします。ぜひご覧ください。



【公式FacebookURL】
<http://www.facebook.com/bukkyo.univ>



読者プレゼントの お知らせ

佛大オリジナルグッズをプレゼントいたします。同面添付のアンケートハガキにて応募ください。

計10名様 オリジナルぶったんストラップ

計10名様 京都サンガF.C.×佛教大学 オリジナルタオルマフラー